

11月前半分を早めに書いたので、左団扇とっていたら、あっという間に月末になってしまいました。光陰矢の如し。皆さんもやるべきことは後回しにしないことが大切です。

さて、最近は随分と日が早く暮れるようになりましたが、夜になって働くのはそんなに愉快ではありません。まして深夜の呼び出しは辛いものです。

しかしながら、私たちの仕事にこれはつきものです。もちろん、診療科や病院によって濃淡はあり、殆ど呼ばれたことがない先生も多いと思いますが、当院のような急性期病院では避けることができません。私はもともと麻酔科だったので、大学にいた時と留学中以外はオンコールが月8回位の時もあり、多い時は二人でカバーすることもありました。もちろん毎日手術、という訳ではありませんけど。

先日も当直中に腹部所見が乏しい腹痛患者さんが来院し、造影CT検査を行ったところ、胃壁に造影不良域があり、周りになんとか液体貯留がありました。胃に大穴があるのではないかと、緊急手術が必要なのではないかと考え、外科医に緊急で登院してもらいました。その外科医は昨年まで当院の研修医でしたが、今は立派なスタッフドクターの若い先生です。消化器内科の先生も来てくれたので協議の上、夜が明けてからの内視鏡検査の方針となりました。研修医を終えてから半年強の外科医の経験でも、随分と成長しているように感じました。私がきちんと診断すれば呼ぶ必要もなかったのですが…。

真夜中でもフットワーク軽く駆けつけるというのは辛い仕事ですけど、他科の信頼はそんなところに根差していますからね。

深夜3時に呼んでしまい、本当にすみません。助かりました。そして立派になりました。

